

Data Integration and Analysis System 明日の地球のために

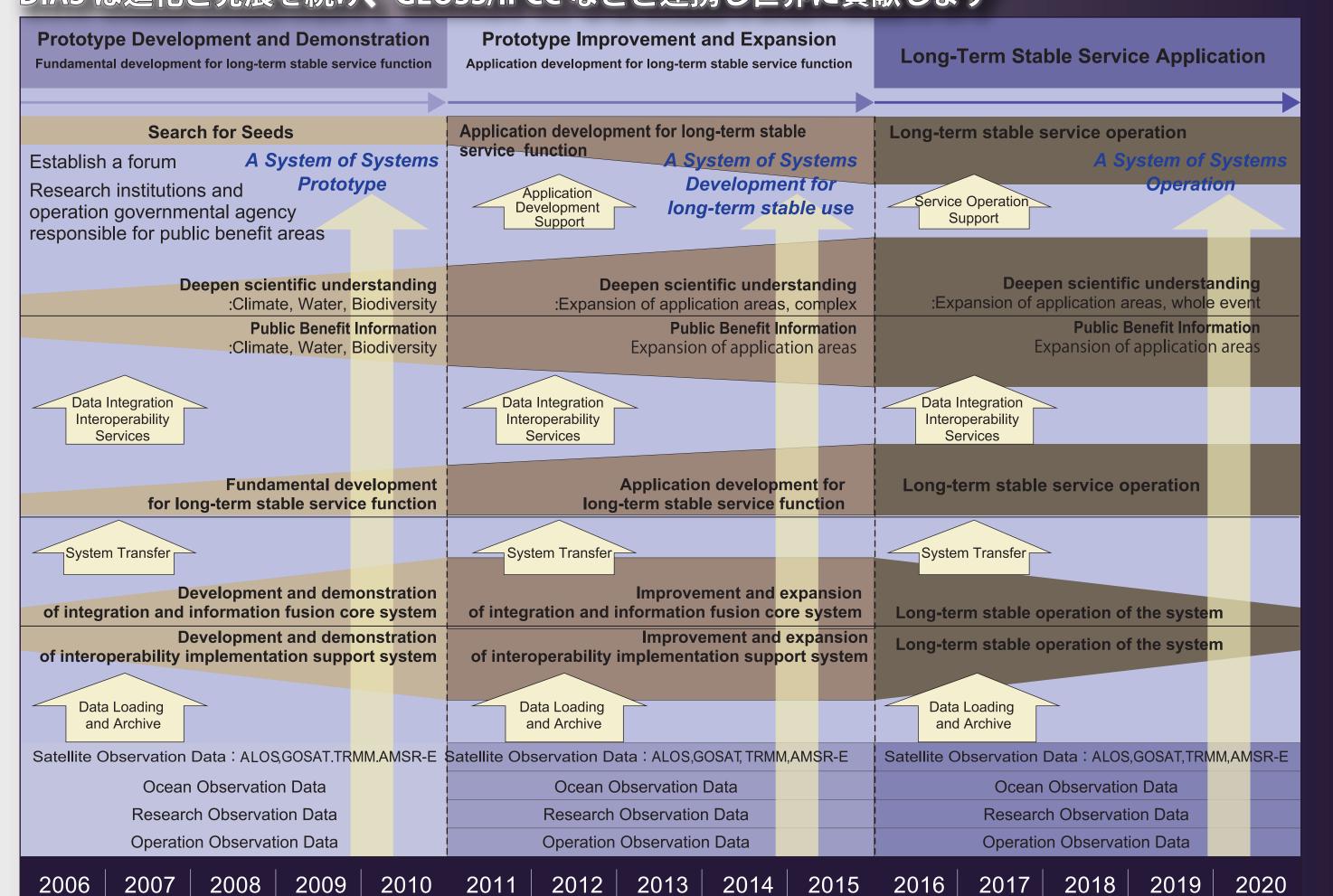
DIAS Data Integration & Analysis System

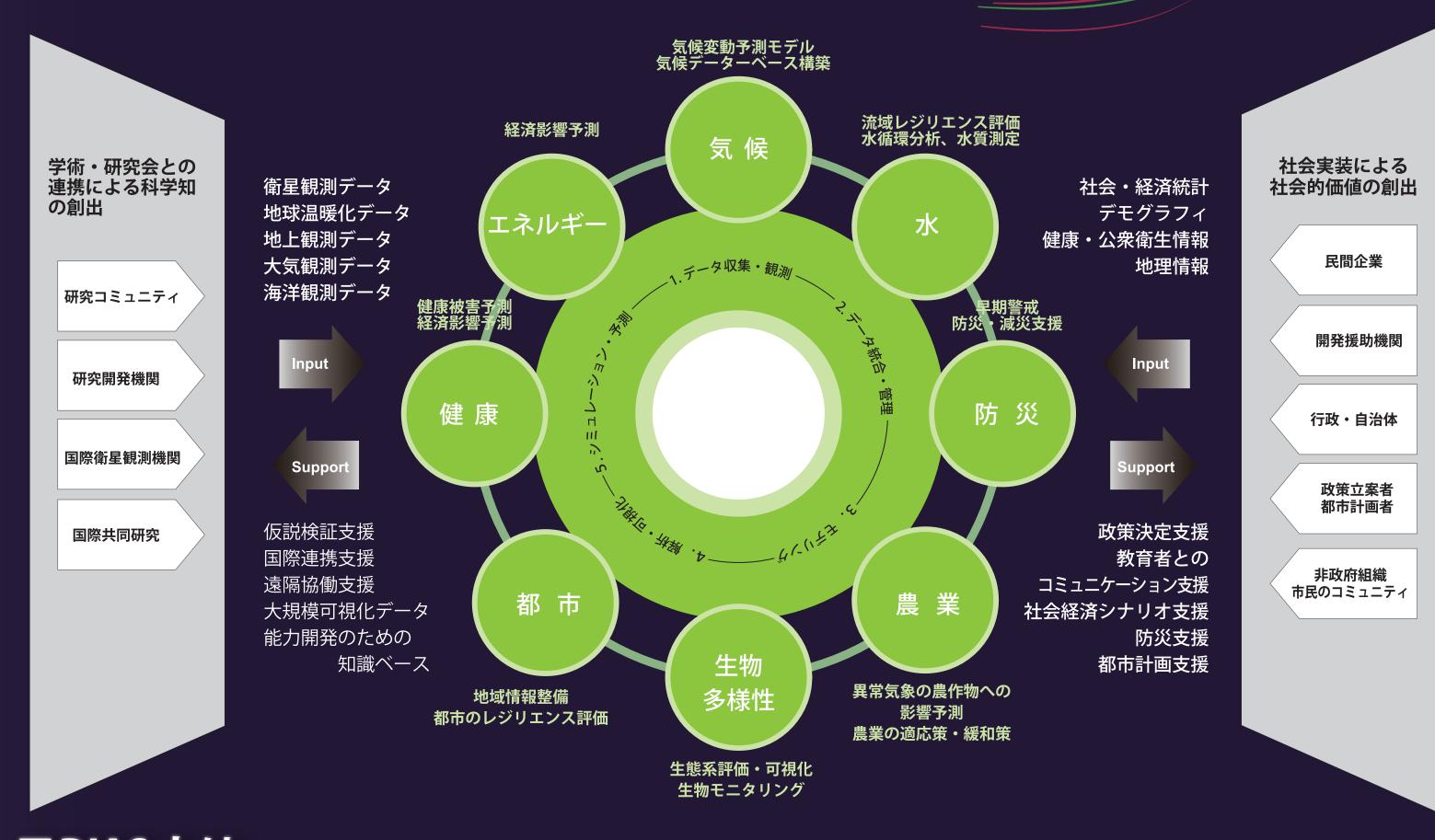
□ DIAS のこれまでとこれから

1981年東京大学生産技術研究所で地球環境データリポジトリの開発が開始

2006年 DIAS 第 | 期がスタート、2011年からの第 || 期を経て 2016年には第 || 期へ

DIAS は進化と発展を続け、GEOSS/IPCC などと連携し世界に貢献します





■DIAS とは

自然の大きな変動は人間社会に甚大な災害を引き起こす一方で、地球温暖化や生態系の破壊など人間活動の影響が自然系の変化をもたらし、人間活動の制約条件になっています。こうした問題に対して、地球観測データを利用することで地球環境に対する理解の深化と予測能力の向上を進め、危機管理や資源管理等における健全な意思決定に資する情報を提供することが国内外から求められています。

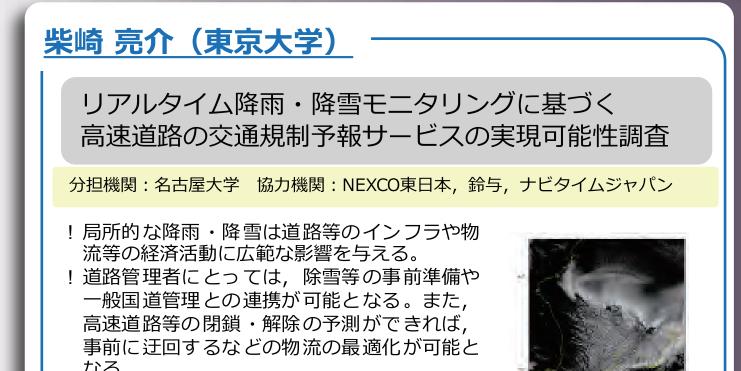
データ統合・解析システム **DIAS** (Data Integration and Analysis System) は、地球規模/各地域の観測で得られたデータを収集し、永続的な蓄積・統合・解析を行うとともに、社会経済情報などと融合することで、地球規模の環境問題や大規模自然災害等の脅威に対する危機管理に有益な情報へと変換し国内外に提供するものであり、我が国の総合的な安全保障や国民の安全・安心の実現に資することを目的として、2006 年度にスタートしました。2010 年度にはプロトタイプの開発が完了し、世界で初めて多種多様かつ大容量な地球観測データ、気候変動予測データ等を統合的に組み合わせ、水循環や農業等の分野における気候変動の影響評価や適応策立案に資する科学的情報を提供するプラットフォームが実現しました。2011 年度からは第 II 期として DIAS を社会的、公共的インフラとして実用化するための更なる高度化・拡張を実施し、2016 年度からは実運用に向けた第 III 期がスタート、気候変動適応・緩和等の地球規模の社会課題に貢献する社会基盤として、長期的安定的に利用されるシステムを目指しさらなる発展と進化を続けています。

■DIAS の利用分野

生活にかかわることから研究開発・ビジネス・都市/環境問題まで、様々な利用が可能です

■ FS 課題の実施

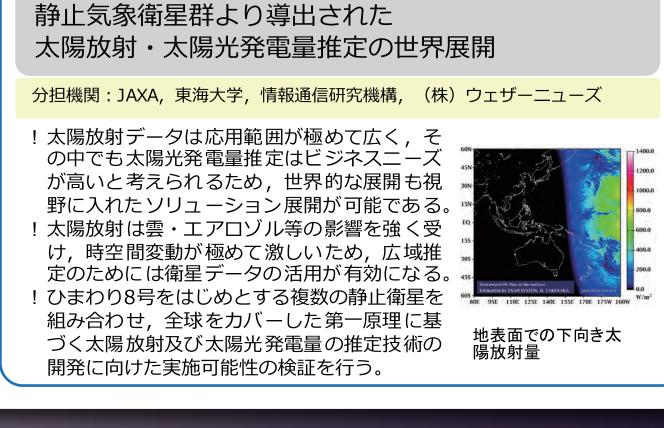
FY28 年度の取り組みとして、DIAS に実装する基幹アプリケーションの開発に向け、開発するアプリケーションの技術的先進性及び開発可能性、また開発したアプリケー ションに対するユーザニーズ及び社会的課題の解決への貢献などの要件について検証を行うフィジビリティ**スタディを実施しました。**



み合わせ,交通規制対象区間の局所的な道路

気象を推定することにより, 交通規制予報

サービスの実現可能性の検証を行う。



樋口 篤志(千葉大学)

